



特集  
 特集 2

鎌足と皇子が乙巳の変について密談をしたと言われる「談い山」が社号の由来、談山神社(桜井市多武峰)



あま かの おか  
**甘樫丘(明日香村豊浦)**

日本書紀で、蘇我蝦夷・入鹿親子が邸宅を築いたと記されている場所です。現在一帯は国営飛鳥歴史公園に指定され、頂上には明日香村や大和三山といわれる耳成山、畝傍山、香具山などを一望できる展望台があります。



**山田寺跡(桜井市山田)**

蘇我倉山田石川麻呂臣が創建したと言われる寺の跡地です。1982年に行われた発掘によって、寺の東回廊が倒れた状態で地中に埋もれているのが見つかりました。この東回廊は現在復元され、明日香村にある奈良文化財研究所飛鳥資料館に展示されています。



巻第二十四  
 「皇極天皇」  
**乙巳の変**

聖徳太子の死後、蘇我大臣蝦夷と入鹿親子は、甘樫丘に邸宅を建て、その邸宅を宮門と呼ばせるなど臣下にあるまじき振る舞いを行い、天皇が行う政治への介入を行っていきました。中臣鎌足は君臣の別をわきまえない蘇我氏一族に憤つていました。そのような時、鎌足は飛鳥寺で行われた蹴鞠の催しにおいて、中大兄皇子(のちの天智天皇)と出会いました。二人は意気投合し、蘇我氏を討つための相談を行いました。

645年6月、皇子と鎌足は佐伯連子麻呂と葛城稚犬養連網田に剣を授け、蘇我倉山田石川麻呂臣が皇極天皇の前で上表文を読み上げている時に入鹿の不意をついて斬る作戦を立てました。しかし、子麻呂と網田は怯えて動けなかったため、見かねた皇子が入鹿を討ちました。入鹿の死を知った蝦夷は館に火を放ち、一族と共に自害してしまいました。こうして、乙巳の変のクーデターは幕を下ろしました。

奈良を知ろう  
 暮らしに役立つ  
 お知らせ

**「日本書紀」編纂1300年 ー歴史と文学とー 受講者募集中!**

今年は日本書紀が完成してから1300年の記念の年にあたることから、記念シンポジウムを開催します。後半には、日本書紀の時代にもあった「疫病」や「天変地異」などを切口に、万葉文化館研究員との座談会も行います。

時 11月23日(祝) 13時30分～  
 所 県立万葉文化館(明日香村)  
 申 11月2日(月) ※要事前申込  
 詳しくは、26ページまたは下記HPへ  
 www.manyo.jp

